

## 令和3年度 第2回滋賀県環境学習等推進協議会 議事概要

- 1 日時：令和4年1月25日（火）15：00～17：00
- 2 場所：一般社団法人環びわ湖大学・地域コンソーシアム 会議室  
（大津市末広町1番1号 日本生命大津ビル4階）（オンライン開催）
- 3 出席者：参加委員13名  
事務局 環境政策課、琵琶湖博物館環境学習センター  
教委幼小中教育課、教委生涯学習課  
参加者 教委高校教育課
- 4 協議会内容：次第に沿って進行。議事内容は以下のとおり。

### ■議事（1）「第四次滋賀県環境学習推進計画」の進行管理の方法について

資料1および資料2に基づき説明：事務局（環境政策課）

#### 委員：

- 資料1のP10,11の地域別環境保全行動実施率について、地域別に優劣をつけたりするものではないということは理解しているが、一方で令和2年度と令和3年度では、環境保全行動実施率が高い地域が甲賀と湖北が逆転しているので、このような違いが出た背景などは分析できれば良いと思う。

#### 委員：

- 2か年の比較をする際に、属性別のデータを活用して可能な範囲で分析していただきたい。

#### 委員：

- 「指標」という用語について、資料1の中にはアウトカム、アウトプット指標、関連指標、参考指標と、指標の名前が複数ある。用語の整理が不十分と思われるため、改めて事務局に整理いただきたい。

#### 委員：

- 資料1のP8の関連指標は、計画の中で人々の行動化に向けて、人育てや学びの場づくりなどを進めた結果、地域や環境が良くなったことをみていくアウトカム指標だと考える。「この計画は行動化を目指しているもので、このような行動が見られました」というような一文を入れていただくなどすれば、各分野で学びの場づくりをしてきた成果が見やすくなり良いと思う。

委員：

- 資料1のP15の参考事例について、単にどのような事業があったかを載せるだけの表面的な評価や、一部の地域にしかできない事例を載せるのではなく、どの地域でも応用して取り入れたいと思えるような良い事例を載せていただきたい。

委員：

- 資料1のP16、17にSDGsとMLGsとの関連性を追加するとあるが、これは各ゴールの事業数をカウントするということか。これを一つひとつ評価することは難しいと思うが、事業数をカウントするだけでよいのかについては議論が必要だと思う。

→事務局（環境政策課）：

- 現時点では、各事業がSDGsとMLGsのどのゴールを意識しているかを確認し、それぞれの事業数をカウントしていきたいと考えている。

委員：

- SDGsとMLGsとの関連性においては、1つのゴールだけではなく複数のゴールに関連している事業があると考え。また、複数のゴールを意識することも大切だと思うが、どのように考えておられるのか。

→事務局（環境政策課）：

- これは延べ事業数であり、重複選択は可能とする。

## ■議事(2)その他（ギアモデルのステップである「学ぶ」について）

資料3に基づき説明：事務局（環境政策課）

委員：

- 資料3の2の案2に近い意見として、言葉は「学ぶ」のままとするのが良いと思う。ただし、狭義の意味であることの注釈を入れるよりも、このギアモデルでの「学ぶ」に込めた意味を書いた方が良いのではないと考える。（「学ぶ」の説明例：「学ぶ」とは、書籍などで調べたり、人と出会ったり体験したりする中で行う学習のことをいう。）

委員：

- 教育委員会では、「読み解く力」という考え方がある。この考え方の流れとしては、まず「発見・蓄積（必要な情報を確かに取り出すこと）」の段階がある。これがギアモデルの「気づく」に近いのではないかと考える。次に、「分析・整理（情報を比較し、関連付け

て整理すること)」の段階があるが、これが「学ぶ」に近いと考える。次の段階には、「再構築（自分なりに解決し、知識を再構築すること）」がある、これは「考える」に近いと考える。この意味で、「学ぶ」の意味について注釈をつけるのが良いと考える。

委員：

○「学ぶ」ということをどう伝えたいかを記載することが良いと考えた。

委員：

○それでは、改めて事務局の方で、ギアモデルのサイクル全体を説明する部分において、「学ぶ」という言葉を外せないか検討してほしい。つまり、ギアモデルのサイクル全体を意味する大きな意味での「学ぶ」とステップの一つとしての「学ぶ」という言葉が混在しており、誤解を生むような表現がないか確認していただきたい。

委員：

○資料3の代替案では「学ぶ」を表現しきれないのではないかと考える。「もっと知る」や「深く知る」などの言葉を加えながら「学ぶ」の説明をつけるのが良いと思う。

委員：

○今回の議論の結論として、ギアモデルの「学ぶ」という言葉自体はそのままとして、この「学ぶ」がどのような意味を指すのか適切な説明を加えることとしたい。  
○ただ、この適切な説明をどうするかについては、今後委員の皆様アイデアを頂きながら、事務局には次回の協議会までに素案を考えていただきたい。